二〇二四年十月二十日

今日は、日曜日。休みである。しかし、いつもの日曜日とは少し違う感じがする。朝も八時まで寝てしまった。

昨日の五十周年記念大運動会はとても盛り上がった。白緑が扇小の伝統だということを、最近知ったが、本当に迫力があった。

シンジョーは、小学校最後の運動会に燃えに燃えていた。学級会でも、クラスみんなで夏休みの過ごし方を決めたほどである。

一　毎日運動すること

二　お菓子の食べ過ぎに注意すること

三　ジュースの飲み過ぎに注意すること

四　ゲームをやり過ぎないこと

五　週に一回は全力走をすること

★九月三日に50m走の記録会

目標を必ず達成すること

シンジョーだけでなく、クラスみんながこの過ごし方を守った。「夏休みの過ごし方が運動会や市内体育祭の結果を左右する」と担任が言ったことをみんなが信じた。

九月三日に行った記録会では、一学期に立てた個人目標タイムを、全員がクリアした。一秒近く速くなった子もいる。この子は「ダイエットしたから」と笑っていたが、毎朝近くの公園を走っていたらしい。

七月の練習では、全員リレーでダントツの四位だったこのクラスが、昨日は堂々の一位だった。徒競走でも「初めて一位になった」と泣いていた子が何人かいた。

シンジョーのクラスの大躍進は、夏休みの過ごし方だけが理由ではない。他のクラスでは、やっていないようなことを、全員が本気でやってきたからだと、シンジョーは思っている。

・二学期になってから、朝の会では運動会の目標を毎日、全員で言った

・「優勝したときの姿」を寝る前に必ずイメージするようにした

・優勝したときのごほうびを、家の人に約束してもらった

・休みの日にも、必ず五回はダッシュをした

・ゲームをする時間を減らした

・どのクラスよりもいいあいさつを先生

や地域の人にした

・室内では静かに過ごし、外に出たら全力で走った

・困っている友達を見たら、必ず助けるようにした

担任の気合いもすごかった。子供たちへのメッセージをオクリンクに毎日送ってきた。そのメッセージは教室にも貼り出された。覚えているものだけでも、十近くある。

「良いことをすれば良いことが起こる」

「ゲームばかりやってる者の体力が高まるはずがない」

「ゲームを我慢する力が走力につながる」

「スポーツの神様は、礼儀正しい者にほほえむ」

「他人を助けられない者が一番になることはない」

「今日練習しない者が、明日伸びていることは１００％ない！」

「練習こそが本番である」

「五十年目に優勝すれば歴史に残る」

「今がんばる者だけに明るい未来がある」

「スポーツとはルールだ。ルールを守るものが勝負を制する」

シンジョーは毎日送られてくる担任からのメッセージを、毎日書いている日記の最後に書いていた。ほぼ二ヶ月送られてきたメッセージの中で、最もシンジョーの心に刺さったのは、

「五十年後に自慢できるか！」

である。五十年たってもて忘れない、五十年後、近くにいる人に自慢話ができる、そんな運動会にしようと、担任はよく語っていた。

このメッセージが届いた日、シンジョーは宿題もやらず、母に頼まれた手伝いもせずに、ずっとネットを見ていた。自分の班で決めた日課である「もも上げ三十回」もさぼろうと思っていた。

そんなだらけていた時に届いたメッセージ

「五十年後に自慢できるか！」は、こたえた。こんなことしていたらダメだ。運動会までは、みんなで決めたことをがんばろう。シンジョーは、このメッセージを日記帳だけでなく、算数や国語のノートの裏表紙にも書いた。

この話には、続きがある。運動会が近づいたある日、担任に頼まれて算数のノートを配ったことがある。その時に知った。裏表紙にこのメッセージを書いているのはシンジョー

だけではなかった。普段は本気を見せない友達のノートにも

「五十年後に自慢できるか！」

と書いてあったのを見つけたシンジョーは、感動してしまった。そしてこの時に思った。

「今年のうちのクラスは、とんでもない結果を出す」「奇跡は起きるかもしれない」と。

昨日は、その「奇跡」が起きた。もう奇跡ではなかった。数日前から、シンジョーのクラスは、練習での態度だけでなく、授業中の態度も劇的に変わっていったのだ。こんなクラスが負けるはずがない、そう全員が思っていた。きっと先生たちも、思ってくれていただろう。

がんばって負けずに勉強しよう

大好きな大好きなこの学校で

シンジョーは、昨日の得点発表のこと、優勝したと知ったときの感激と歓声、教室での興奮を思い出し、一人、家の中で、ちょっと大きな声で校歌を歌ってしまった。